

科目名	歴史のなかの大坂	単位数	2	授業形態	講義	担当 教員	塚田 孝(文)
英語表記	History of Osaka						

● 科目の主題

「近世都市大坂の社会組織と民衆生活」

豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世（江戸時代）の大坂は、現代都市大阪につながってくる直接の基点である。しかし、一方で、近世の大坂に生きた人々は、現在のわれわれの生活感覚とは異質な面も多い。この講義では、現代の基点である側面と異質な側面を意識しつつ、豊臣期から近世にかけての大坂の社会組織と民衆生活にしばって紹介する。

● 授業の到達目標

近世大坂の都市社会の基本的なことを理解する。それを通して、私たちが現在くらしている現代都市大阪について、過去との共通性・異質性の両面から相対化して考えられるようになることを目標とする。

● 授業内容・授業計画

この講義では、はじめに舞台となる大坂の都市空間の形成過程と構造について触れ、その後は、都市社会の主人公である都市民衆の生活に光を当てていく。その際、都市の住民生活の基礎単位である「町」に着目して、町の構造と機能をベースにしながら、そこで生きた家持や借屋などの生活をうかがっていく。

なお、各回の講義では、鍵となる近世の史料(活字)を入り口として話を進める。これにより大坂の歴史をより身近に感じてもらえればと思っている。

- ①三郷絵図・・・大坂の広がりとは三郷
- ②安井家の由緒書・・・道頓堀の開発と惣年寄
- ③水帳（土地台帳）と宗門人別帳・・・町の空間と住民構成
- ④町掟（町法）・・・自律的な共同組織としての町
- ⑤孝子褒賞と忠勤褒賞・・・都市民衆の生活世界を探る
- ⑥裏借屋の人びと・・・小営業と働き渡世、女性の

活計

- ⑦大店の盛衰・・・職人と商人
- ⑧まとめ・・・近世から近代へ

各テーマについて1～2回程度で進めていくつもりである。重点的に述べる部分では、最先端の学説なども紹介するつもりなので、歴史学という学問の方法の一端にも触れてもらえればと思う。なお、授業の一環として、大阪歴史博物館の見学会を実施する（例年は、授業期間中の土曜日に実施）。

● 事前・事後学習の内容

毎回、『史料から読む近世大坂《試行版》』に収録する史料1～2点を取り上げるので、事前に史料の釈文・現代語訳・語句説明を読んで、自分なりに史料の概要を把握しておく。授業後には、各史料の解説で書かれていることを参照して、講義内容の定着を図る。翌週の授業で前週の講義内容に関わることを質問し、コミュニケーションカードで回答を求める。

● 評価方法

授業中に行なう中テスト、レポート、コミュニケーションカード（各回の理解度）などで総合的に評価する。

● 受講生へのコメント

身近な大阪に関する講義なので、話に出てきた場所（史跡など）に自ら足を運んでみるくらいの積極的な姿勢で受講してほしい。

● 教材

教科書：『史料から読む近世大坂《試行版》』2012年
 参考書：塚田孝『歴史のなかの大坂』岩波書店、2002年

（他に、現在執筆中の孝子・忠勤褒賞に関する著書〔2017年刊行予定〕）